

リーマン・ショック後の就職率の上昇とその要因（秋田県）

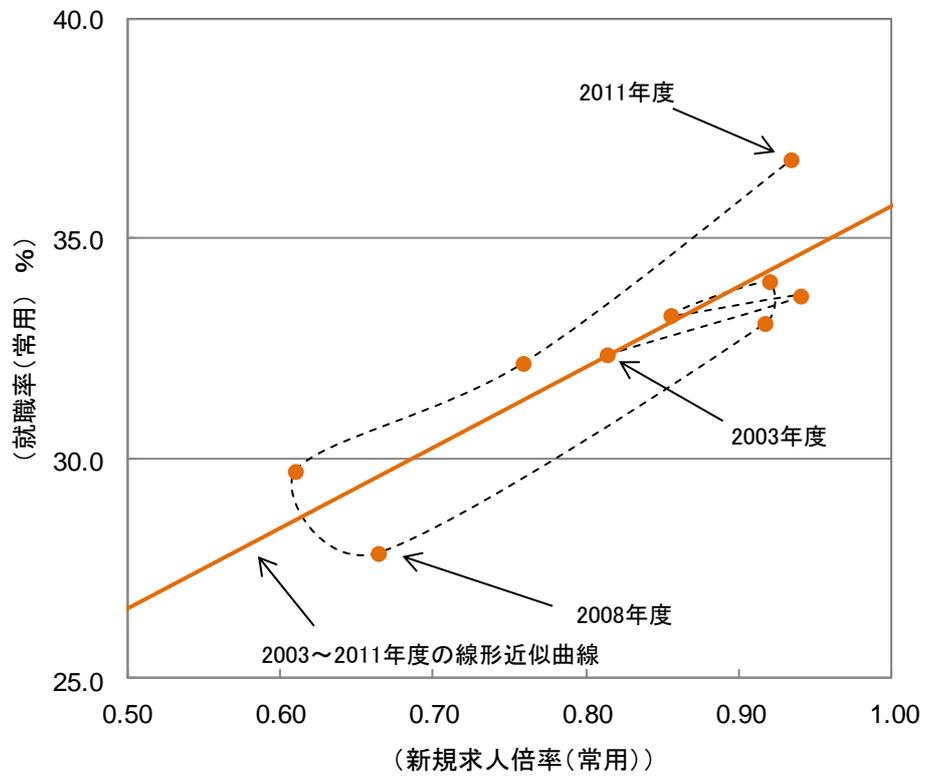
- ① ハローワークの就職率と新規求人倍率の関係をみると、一般に、就職率は新規求人倍率の上昇に応じて上昇する傾向があり、求人の選択肢が増えること、マッチングの効率は高まることからわかる。秋田県内の動きをみると、2009年度は新規求人倍率が低下したが、就職率は上昇しており、2009年度以降、それまでのトレンドよりも就職率の水準は高くなっている。
- ② 就職率の前年差を紹介率と紹介成功率とにわけると、2009年度は紹介成功率が低下する中で紹介率が大きく上昇し、就職率も上昇している。紹介率が上昇した理由としては、リーマン・ショック後、ハローワークの職員等が増員され窓口数が増加したことや^(注1)、就職を急ぐ求職者が増加したことにより^(注2)、紹介件数が増加したことなどが考えられる^(注3)。2010年度以降は紹介成功率要因がプラスに転じ、従来のトレンドよりも高い就職率水準を維持している。

(注1) OECD "Employment Outlook 2010", pp.52-54、厚生労働省『平成24年度労働経済白書』, pp.22-23

(注2) リーマン・ショック後、解雇・雇止め等により事業所を離職した求職者が増加したが、当該求職者には、労働条件の良い求人に積極的に応募し就職を急ぐ（緊要度が高い）傾向がみられた。

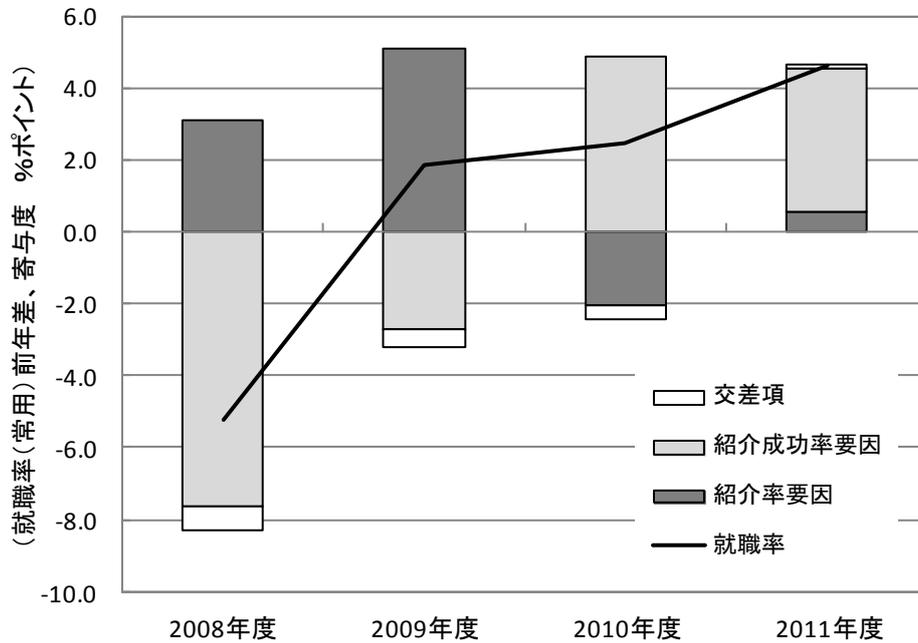
(注3) 就職率および紹介率が上昇した要因には、新規求職者が減少し、前月から繰り越された有効求職者の就職件数および紹介件数が増加したこともあるが、有効求職者ベースの就職率で見ても、同様に、トレンドよりも高い水準となっている。

図1 就職率と新規求人倍率の関係（秋田県）



資料出所 秋田労働局『一般職業紹介状況』
(注) 就職率=就職者数/新規求職申込件数。

図2 就職率（前年差）の推移と要因（秋田県）



資料出所 秋田労働局『一般職業紹介状況』

(注) 1. 紹介成功率＝就職者数／紹介件数、紹介率＝紹介件数／新規求職申込件数。

2. 下式による。ただし、 h : 就職率、 s : 紹介成功率、 i : 紹介率、 t : 年度。

$$h_t = s_t \cdot i_t$$

$$h_t - h_{t-1} = (s_t - s_{t-1}) \cdot i_{t-1} + (i_t - i_{t-1}) \cdot s_{t-1} + (s_t - s_{t-1}) \cdot (i_t - i_{t-1})$$

(紹介成功率要因) (紹介率要因) (交差項)

問い合わせ先

秋田労働局職業安定部長

渡邊 学

直通：018-883-0006